

## 日本豆乳協会の食育活動について

日本豆乳協会では、2013年より、全国の高校生を対象に食育活動を展開しています。主に食や栄養を学ぶ高校生を対象に「豆乳食育移動教室」や「豆乳レシピ甲子園」、「豆乳資格検定」の実施やスポーツアスリートを目指す高校生を対象に良質な植物性たんぱく質の摂取の大切さを訴求するため「豆乳スポーツ×キャンペーン」等を実施し、未来を担う生徒の健康を支援しています。

- 豆乳食育移動教室

豆乳食育移動教室は、2013年より開始し、本年で11年目になります。食の欧米化により、急速に和食離れが進み、日本古来の大豆製品に対する理解や知識が薄まっていく中で、日頃から栄養や食物、調理に関心の高い生徒を対象に、豆乳に関する啓発活動のひとつとして、豆乳の特長や優位性等を訴求するために実施しています。すでに、全国20の都道府県において、40の高校で、1,300名超の生徒が受講しており、豆乳に対する理解を深めています。実施後のアンケートでは、豆乳を飲んだことがない生徒が一定数いること、本移動教室を通して、はじめて豆乳を試飲したことで、今後の摂取や調理への利用意向が高まっていることが分かりました。

2013年から2023年の実績

実施都道府県	実施学校数	受講した生徒数
20	40校	約1,300名

- 豆乳レシピ甲子園

2014年から開始した豆乳レシピ甲子園も、高校生に対し、豆乳を通じた食育活動の一環として展開している活動です。当初は、800名（1回）程度であった応募者も、年々応募者数が増加し、この数年は、2,000件を超えており、高校生によるレシピの応募は、累計13,421件に上ります。全国各地の食材や郷土料理で競う「郷土料理」をはじめ、豆乳を使った「おかず」や「スイーツ・デザート」、そして、豆乳とのバランスが問われる「野菜」といったそれぞれの部門ごとに、新たな豆乳レシピが考案されるようになりました。これらの活動を通し、全国の高校生に、豆乳を中心とする様々な食材の可能性を追求しています。

2014年から2023年の実績

応募校の都道府県	応募学校数	応募レシピ数
38	約550校	約1,300名

- 豆乳スポーツ×キャンペーン

2016年から開始したスポーツ×豆乳キャンペーンは、高校生に対し、良質な植物性たんぱく質摂取の必要性を啓発、豆乳の習慣化をサポートするために実施しています。特に文科省で定められたスポーツ強化校をはじめ、インターハイや高校総体、体育祭等の機会に、高校生に豆乳のサンプリングをしています。あわせて、良質なたんぱく質の摂取の必要性を訴求する高校生向けのパンフレットを配布しています。また毎年、豆乳の試飲後に参加生徒に対して、アンケートを実施し、定点で結果を観測しています。

2016年から2023年の実績

実施した都道府県	実施した学校数（のべ）	豆乳サンプリング数
28	106校	61,500本

実施後のアンケートでは、豆乳には筋肉づくりに必要な良質なたんぱく質が含まれていることに対する理解を深め、豆乳のサンプリングの機会を通し、今後の摂取意向が高まっていることが分かりました。

- 豆乳資格検定

2013年から開始した豆乳資格検定は、毎年12月に、東京、大阪、名古屋の会場で実施しています。すでに10回の試験を実施し、約1,000名の豆乳マイスター、約500名の豆乳マイスター“プロ”を輩出しています。また、豆乳メーカーの工場をはじめ、調理や栄養を学ぶ高校でのサテライト会場においても同資格検定を実施しています。豆乳や大豆に興味のある家庭の主婦、そして、豆乳のメーカーや管理栄養士や料理研究家等、豆乳に関係する職業従事者等、様々な受験者が毎年、同資格検定に挑戦しています。そして、合格後は、それぞれの領域で豆乳の魅力を発信しています。

(2024年7月現在)